

受験番号

--

※答えはすべて解答用紙に書きなさい。

※選んで答える問題は、記号で答えなさい。

※特にことわりのないかぎり、句読点やかきかっちはすべて字数にふくみます。

※設問の都合上、本文に一部省略があります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一九三〇年代初め、ユクスキユルは、環境と世界の問題に関し、非常におもしろい理論を展開した。

われわれが環境というとき、昔は環境というのは、あるもの、とくに生物学でいうときには、ある生き物（もちろん人間を含めて）の身の回りにあるものを環境ということになっていた。ドイツ語では、これを「ウムゲーブング」、まわりに与えられたもの、という言葉を使って表現していた。他の辞書で環境とひけば、英語では「エンヴァイロンメント」、フランス語では「ミリュー」あるいは「アンヴィロンヌマン」、ロシア語では「スリェダー」と記されている。

英語の「エンヴァイロンメント」というのは、「エンヴァイロン」、すなわちまわりをとりかこむものということである。他の言語でも同じことだ。つまり、まわりをとりかこむもの、それをわれわれは環境といっている。そして、かつての「自然科学的」な認識では、環境は客観的に存在するもので、温度は何度、湿度はどれくらいであって、空気は濃度はどれくらい、酸素の濃度、二酸化炭素の濃度はどうだなど、すべて数字で記述できるもの、それが環境であるというふうに思われていた。

そこには、草もある。それには、どういう草と、どういう草があって、花が咲いている、どういう木がある、どんな石がある、等々、全部記述できるはずである。それが、そこに住んでいる動物の環境、客観的な環境である。こういう認識が、もっともオーソドックスな環境の定義であった。

しかし、ユクスキユルはそうではないというのである。

彼が一九三四年、クリサートと共に著した「動物と人間の環世界をめぐる散策」（邦訳のタイトルは『生物から見た世界』日高敏隆・羽田節子訳、岩波文庫、二〇〇五年）という小さな本の中で、ユクスキユルはこれについて詳しく論じている。

その議論はきわめて理論的で、一読して簡単に理解できるとはいいが、彼が例にとったダニの話は、多くの人びとに強い印象を与えた。

森や藪の茂みの枝には小さなダニがまとっている。この動物は温血動物の生き血を食物としている。ダニは適当な灌木の枝先によじ登り、そこで獲物をじっと待つ。またまた下を小さな哺乳類が通ると、ダニは即座に落下して、その動物の体にとりつく。

ダニには目がないので、待ち伏せの場所に登っていくには全身の皮膚にそなわった光感覚に頼っている。哺乳類の皮膚から流れてくる酪酸の匂いをキャッチすると、とたんにダニは下へ落ちる。酪酸の匂いが獲物の信号となるのである。

ダニがその敏感な温度感覚によって、自分が何か温かいものの上に落ちたことを知ったら、ダニは触覚によって毛の少ない場所を探し出し、口を突っ込んで血液を吸う。これでダニは食物にありつくことができ、その栄養によって卵をつくり、子孫を残す。

この一連のプロセスは、生理学的に理解すれば、まず光、次いで【A】、そして【B】、最後に【C】に対する機械的な反射行動の連続のように思える。

そのように見れば、ダニは一つの機械にすぎない。けれどそこでユクスキユルは、ダニは機械なのか、それとも機関士なのかと問うのである。

光も匂いも温度も接触もすべて刺激である。しかし、刺激というものは一つの信号ではあるけれども、それが主体によって知覚されたとき、初めて刺激となるものだ。

ダニはそれぞれの信号に対してそれを意味のある知覚信号として認知し、それに対し主体として反応する。その結果、ダニは食物を得、子孫を残していくのである。つまり、ダニは機械ではなくて、機関士なのである。

機関士としてのダニにとって、その環境にはさまざまなものがある。空気、空気の動き、光、日射による温度、植物の匂い、葉ずれの音、いろいろな虫の匂いや歩く音、トリの声もするだろう。しかしそれらのほとんどすべては、ダニにとって意味をもたない。

ダニを取り囲んでいる巨大な環境の中で、哺乳類の体から発する匂いとその体温と皮膚の接触刺激という三つだけが、ダニにとって意味をもつ。いかなれば、ダニにとっての世界はこの三つのものだけで構成されているのである。

これがダニにとっての「みすばらしい世界である」と、ユクスキユルはいう。そしてダニの世界のこのみすばらしさこそ、ダニの行動の確実さを約束するものである。ダニが生きていくためには、豊かさより確実さのほうが大切なのだ。ユクスキユルは考えた。

(一) 一、それぞれの動物、それぞれ主体となる動物は、まわりの環境の中から、自分にとって意味のあるものを認識し、その意味のあるものの組み合わせによって、自分たちの世界を構築しているのだ。

〔Ⅱ〕、イモムシであれば、今、自分が乗っている葉は、自分が食べるべき植物である。したがって、その存在は重要な意味をもつものと認識されている。〔Ⅲ〕、そのほかの植物はこのイモムシにとって意味がない。食べられるものではないからである。〔Ⅳ〕それ以外に空気とかいうものは何ら認識する意味はない。結局、その葉っぱというものだけに意味があるのであつて、他のものは存在していないに等しい。しかし、イモムシにもやはり敵がいる。ハチとかがこのイモムシを食べにくる。それは7彼らにとって意味がある。そういうものがきたとき、彼らが落とす影や彼らの翅の動きが起こる。その空気の動きにイモムシたちが重大な意味を与えている。それは何ということのない、そよ風が起こす空気の動きとはちがい、自分の命にかかわるものである。そのような意味をもつ空気の動きに対しては、彼らは身体をくねらして逃げようとする。あるいは、地面に落ちる。8 そうやつて敵を避けようとする。

そういう意味のある存在を彼らは認識できようになっている。

彼らの世界はほとんどこれらのものから成り立っている。たとえば、美しい花が咲いていようと、それは彼らにとっては意味がない。食物としても敵としても意味のないそのようなものは、彼らの世界の中に存在しないのである。彼らにとって大切なのは、客観的な環境といわれているようなものではなくて、彼らという主体、この場合にはイモムシが、意味を与え、構築している世界なのである。

それが大事なのだと、ユクスキュルはいう。ユクスキュルはこの世界のことを「環世界」、「ウムムエルト」と呼んだ。「ウム」はまわりの、「ヴエルト」は世界である。つまり、彼らのまわりの世界、ただ取り囲んでいるというのではなくて、彼ら主体が意味を与えて作りあげた世界なのであるということを、ユクスキュルは主張した。

したがって、客観的環境というようなのは、存在しないことになる。それぞれの動物が、主体として、まわりの事物に意味を与え、それによって自分たちの環世界を構築しているのである。そして、彼らにとって存在するのは、彼らのこの環世界であり、彼らにとって意味のあるのはその世界なのであるから、一般的な、客観的環境というものは存在しない。つまり、いわゆる環境というものは、主体の動物が違えばみな違った世界になるのだというのである。

たとえば、このいわゆる客観的な環境であるちよつとした林の中に、一羽のトリがいたとする。トリから見ると、どの木が、なるといふ名前の木か、いつ頃実になるかということとは、その時点にしてみると意味がない。なぜならこのトリは、木の実を食べない。虫を食べる。虫を食べるトリにとって、存在するもので意味のあるのは、ひとつは敵であるが、もうひとつは自分の食べ物である。その食べ物は虫である。しかも、このトリは生きた虫を食べる。そのため、動いているもののみ意味がある。

それは生きているからである。動かないものは意味がない。それは石ころかもしれないし、死んだ虫かもしれないし、そんなものはそのトリは食べない。そうすると、動いていなければだめだということになる。

その小さな虫は、動いているときにだけ、このトリの目に見える、存在するものとして認識される。そして、そのトリは、それをついて食べようとする。そうやってそのトリは生きている。まわりには動かないものはいっぱいあるけれど、そのトリにとっては意味がない。彼らにとってそのような世界は存在していないに等しいということになる。

つまり、主体の動物にとって意味のあるのは、**10** その主体の動物の世界を構築しているものだということである。

※ユクスキュル……一八六四～一九四四のドイツの生物学者、哲学者。

※クリサート……ユクスキユルの共同著者。

※酪酸……無色油状の液体。強い臭気をもつ。

※プロセス……過程。

1 次の一文は文中のどこに入れるのが適當ですか。――1「環境の定義であつた」より前の部分から次の一文が入る直後の五字をぬき出して答えなさい。

だから、独和辞典をひけば、ウムゲーブンゲすなわち環境と書いてある。

2 ——— 1 「環境の定義であった」とありますが、「環境の定義」について次の空さんの条件に合うように、それぞれ本文からぬき出して答えなさい。

- I 環境とは 十字 である。
II 環境とは 十三字 である。

3 ——— 2 「たまたま」がかかる言葉として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 小さな イ 通ると ウ 落下して エ とりつく

4 ——— 3 「とたんに」と同じ意味の語を、本文から三字でぬき出して答えなさい。

5 空らん【A】→【C】に入る語として最も適するものを、次の中からそれぞれ選んで答えなさい。

- ア 栄養 イ 触覚 ウ 匂い エ 視覚 オ 温度

6 ——— 4 「ダニは機械ではなくて、機関士なのである」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア ダニは刺激に対して単に反射行動をしているのではなく、意味あるものに対して主体的に反応しているということ。
イ ダニはすべての刺激に対して反射しているだけではなく、主体として興味のある獲物にも反応しているということ。
ウ ダニは機械のように主体的に反射行動をしているだけでなく、ダニにとって意味ある刺激に反応しているということ。
エ ダニは刺激に単に反射しているのではなく、機関士のような強い意志を持って良い刺激に反応しているということ。

7 ——— 5 「みすばらしい」とありますが、本文ではどのような意味で用いられていますか。その説明として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア ダニを取り巻く環境の巨大さに対して、ダニはちっぽけな存在であるという意味。
イ ダニは様々なものを食べる動物と違い、血液を唯一の食物にしているという意味。
ウ ダニを取り巻く多様な環境にあって、知覚できるものが限られているという意味。
エ ダニを取り巻くきれいな環境と異なり、ダニの外見は非常に弱々しいという意味。

8 ——— 6 「ダニが生きていくためには、豊かさより確実さのほうが大切なのだ」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア ダニの生存にとっては多くの獲物を捕らえることより、意味のある認知のなかで間違^{まちが}いなく食物にありつくことが重要であるということ。
イ ダニの生存にとっては意味のない音を感じることより、意味のある認知のなかで問題なく食物にありつくことが重要であるということ。

ウ ダニの生存にとっては豊かな自然を感じることで、限られた認知のなかで間違^{まちが}いなく食物にありつくことが大事であるということ。
エ ダニの生存にとっては多くの刺激を感じることより、限られた認知のなかで間違^{まちが}いなく食物にありつくことが大事であるということ。

9 空らん【I】→【IV】に入る言葉の組み合わせとして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア I しかし II たとえば III そして IV つまり
イ I つまり II たとえば III しかし IV そして
ウ I つまり II しかし III たとえば IV そして
エ I そして II しかし III たとえば IV つまり

10 ——— 7 「彼らにとって意味がある」とありますが、その理由を「うから。」に続くように本文から十五字以内でぬき出して答えなさい。

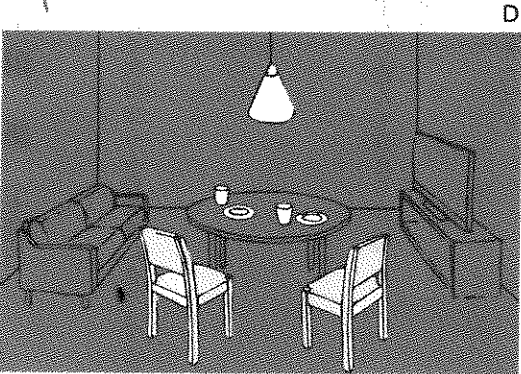
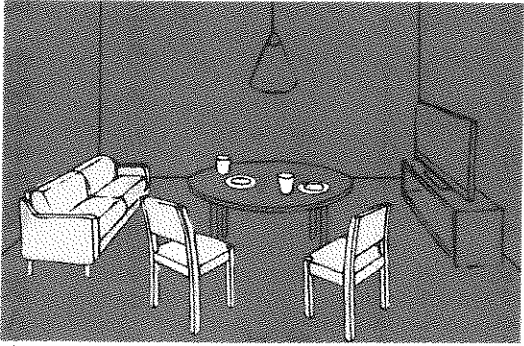
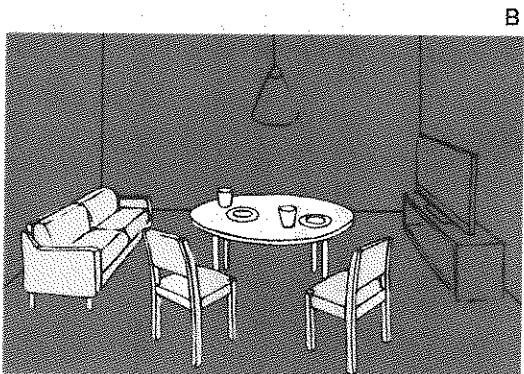
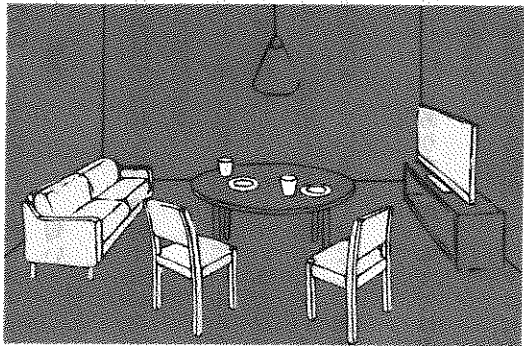
11 ——— 8 「そうやって」とありますが、どうすることですか。二つに分けて答えなさい。ただし、一つ目は十五字以内、二つ目は十字以内で答えなさい。

12 ——— 9 「ユクスキュルはこの世界のことを『環世界』、『ウムヴェルト』と呼んだ」とありますが、「環世界」とはどのような世界ですか。五十五字以内で説明しなさい。

13 ——— 10 「その主体の動物の世界を構築しているもの」について、「イモムシ」と「トリ」の具体例で共通してあげられているものは何ですか。本文から二つぬき出して答えなさい。

14 ユクスキュルの「環世界」によると、イヌはどのように部屋の中を認識していると考えられますか。次の文章を読んで、最も適する図を、次の中から選んで答えなさい。

イヌにとって関心があつて、彼らがつけている世界の中に存在するものは、そのテーブルの上にある食べ物と飲み物である。その絵の中ではこれは、とくに食べ物用の皿は明るく白色に描かれている。椅子やソファは、イヌから見ると、彼らの友達である人間の座るであらうものだから、そこには関心がある。



二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

可哀想に、球児君はただびしょびしょと、泣き濡れていた。

球児君の両親は、高校時代、甲子園に行きたくてひたすら努力して、でももうあとちょっとのところまで夢は叶わなかった。とても悔しかった、その気持ちはわかる。子どもにその夢を託したい気持ちも。

そんなふうにして、一流と呼ばれる存在になった人だった。たくさんいるんだろう。親が全面的にバックアップして、親子一丸となって努力して、そうして夢をつかんだ人たちも。

だけども……。1 親の夢と、子どもの夢は必ずしも一致しない。それは双方にとって不幸なことだ。いや、違うな。より多く、

a にとって不幸なことだ。強いられる辛さに、親の期待に応えられない罪悪感に、そんな自分は親にとって無価値なのではという恐怖感。あれやこれやが絡まり合って、どうしてもほどけない。2 結びコブができあがる。子どもはそこに立ちすくみ、一歩も動くことができなくなる。

今、球児君がここでそうしているように。

3 「部活だなんてウソをついたりして」

お母さんがひととき高い声でそう言い、思わず私は横から叫んでいた。

「ウソなんてついてません。私たち、ちゃんとクラブ活動してました」

お母さんは少し b 私を見て、それから尋ねた。

4 「クラブ活動って……何？」

すると、それまで我関せずだった斎藤先輩が、いきなりずっと進み出た。

「飛行クラブです」

どこまでも偉そうに、そう言った。それで説明はすべて済んだとばかり、ふんぞり返っている。

5 「……何よ、それ」

お母さんがつぶやき、斎藤先輩はさらに c 言った。

「空を飛ぶクラブです」

空を飛ぶ前に空気を読んで。お願い。頼むから。

案の定、お母さんは「信じられない」と【A】を振った。そりゃー信じられないだろうなと思ったけど、もしかしたら、プランでも美術部でも、他の体育会系クラブでも同じ反応だったのかもしれない。野球部以外の、どんなクラブでもダメなのかもしれない。

「本当なら硬球に慣れとくためにもシニアに入るべきなのを、おまえがどうしても中学の野球部に入るって言うから……」元高校球児にしてはお腹が出ているお父さんが、低い声で d 言った。「どうして……」6 親に何の相談もなく「相談したら、許してもらえませんか？」

お父さんの言葉を遮ったのは、中村先輩だった。大の大人相手にとてもキッパリとした口調で。お父さんは「え？」と今初めて存在に気づいたように中村先輩を見た。

「すみません、今回のことは、俺に責任があります。俺、野球部と兼部で……俺が辞めろって言ったんです」

「野球部辞めろって？ なんて君がそんなことを……」

「球児が、野球を好きじゃなくて、辛そうだったから。おじさんやおばさんをがっかりさせたくなくて今まで続けてたけど……」

「それじゃ、私たちが無理やり野球をやらせてきたみたいじゃないの」

心底心外そうにお母さんが叫び、私たちは【B】を見合わせた。

「応援、してきたんですよね」穏やかな声で、中村先輩が言った。「どんだ大変か、俺、スポ少の頃から父母会のお世話になってから、わかります。練習試合で遠征するたびに、手分けして車出してくれたり、道具運んでくれたり、お茶とか、塩分補給とか、試合の応援とか……せっかくの休みにさ、炎天下とかで、ほんと大変ですよ。ユニホームの洗濯だって、毎日すげー大変ですよ。泥汚れて、あれ、落ちないですよ。俺、7 自分で洗ってっから知ってるけど」

「……お母さんは洗ってくれないの？」

思わず、といった感じで、お母さんが尋ねた。

「うちは両親とも、働いてっから。日曜が休みってわけじゃないし、車もねーし。だから配車当番とか、お茶当番とかできなくて、父母会ですげー【C】身狭いらしいです。仕事休むのも、学校行事関係だけでギリギリだし。うち、下にまだチビが三人

いるから余計。病気になったり、予防接種を受けさせたり、もう、そういうんでいっぱいいいだから……だから、⁸ こんなこと
と思うのは親に悪いってわかってんですけど」少し言いよどんでから、中村先輩は続けた。「俺は球児がうらやましいんです。こ
んなふうに力いっぱい応援してくれる親がいて、いいなって。俺、今、肘故障しちゃってて」

「野球肘かい？」

e お父さんが聞く。中村先輩は、小さくうなずいた。

「ちゃんとしたスポーツ医療ができる医者に通って、それからちゃんとしたマッサージを受けて、リハビリもして……そうすりゃ
また野球ができるようになると思うんですけど、そういうの全部、金、かかるじゃないですか。けどうち、金、ねーし。そうい
うのを探したり通わせたりしてくれる時間もねーし。でももしうちの親がおじさんやおばさんみたいだったら、きつとどんなこと
をしたって、ソッコーで治してくれちゃうんだろーなと思ったりして、でもそういうこと思っなのは親に悪いなって思ったりもし
て……俺、何言ってるんすかね。俺の話なんて、関係ないですよ。ただ、⁹ うまくいかねーなって、つまり、言いたいのは……」

f 顔をしかめてから、いきなり中村先輩は深く「D」を下げた。

「ごめんなさいって。そんだけです」

10 説得は無理かもしれないけど、「一緒に叱られてやっからさ。

中村先輩は、そう言っていたのだった。

その言葉通り、先輩は球児君の両親に頭を下げている。一緒に叱られるつもりで。

なんて¹¹ 有言実行な人なんだ……どっかの誰かさんと違ってさ。カッコいいじゃん。

突然、球児君がうわーんと声を上げて泣き出した。それまでもずっと泣いていたのだけど、さらに子どものような、しゃくり
上げるような泣き方になっている。何事かというように、通り過ぎる人たちがこちらをちらちら見ていた。

「ごめんなさい……お父さん、お母さん……中村先輩も、ごめんなさい……ぼく、がんばったけど……がんばったつもりだけ
ど、でももう野球、続けてく自信、ないんだ……」

鳴咽の合間に、球児君はようやくそれだけ言った。

※兼部……二つのクラブに入部すること。

※鳴咽……息をつまらせるように泣くこと。

(加納 朋子『青少年少女飛行倶楽部』より)

1 「親の夢」とありますが、この話での親の夢は何ですか。十五字以内で答えなさい。

2 a に入る最も適する語を、本文からぬき出して答えなさい。

3 2「結びコブ」とありますが、その内容を具体的に指している一文の最初の五字を本文からぬき出して答えなさい。

4 3「部活だなんてウソをついたりして」4「クラブ活動って……何？」5「……何よ、それ」とありますが、その
時のお母さんの気持ちとして最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。

A 息子が自分たちの知らないことをしていたことに怒っている。

I 息子が自分たちの育て方に反抗したことを悲しんでいる。

ウ 息子が選んだクラブがどういものかわからず戸惑っている。

E 息子がどのようなクラブに入ったのか心配している。

5 b f に入る語として最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。

A 偉そうに

I もどかしそうに

ウ 驚いたように

E 心配そうに

オ 絞り出すように

平成二十九年 度 帝塚山中学校 一次A 入学試験問題・国語（その七）

6 【A】「D」に入る体の一部として最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。

ア 顔 イ 頭 ウ 腰 エ 肩 オ 首

7 「親に何の相談もなく」とありますが、「球児」が相談しなかった理由として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 今まで親の命令どおりに生きてきたが、そのような自分を情けないと思ったから。

イ 自分が野球を続けることを応援してくれている両親を気落ちさせたくなかったから。

ウ 野球をやめることを相談したくても、両親とも働いていて話しかける時間がなかったから。

エ 斉藤先輩に、自分が責任を取ってあげるから親には相談する必要はないと言われたから。

8 「自分で洗ってっから」とありますが、その理由として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 自分のユニホームを自分で洗うのは当たり前だと親に教えられてきたから。

イ 母親は仕事や子供の世話が大変で、毎日泥汚れを落としている時間などないから。

ウ 洗濯機がないので、毎日の自分の洗濯くらいは自分でやって母親を助けたいから。

エ 野球を応援してくれない親には頼らず、自分のことは自分でしようと思うから。

9 「こんなこと」とありますが、どんなことですか。「」ということ。」に続くように、本文から十一字でぬき出して答えなさい。

10 「9「うまくいかねーなっ」とありますが、「中村先輩」はどういうことが「うまくいかない」と言っているのですか。「自分」、「球児」、「親」という言葉を入れて五十五字以内で説明しなさい。

11 「10「説得は無理かもしれないけど、一緒に叱られてやっからさ」とありますが、そのように言った理由として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 球児が自分より恵まれた環境なのに親にウソをついて野球部に入っていないことを、少しでも早く両親に伝えてあげたかったから。

イ 球児の親が全く息子の気持ちを理解していないことに腹を立て、何も言えない球児に変わって自分が言ってみようと思ったから。

ウ 球児の親が野球が大好きなのを知って、自分も野球をしていることを伝えたら、肘を治すための手助けをしてくれると期待したから。

エ 自分も小さいころから野球をしていて、親が一生懸命になる気持ちも、子どもがその期待にこたえようと頑張る気持ちも理解していたから。

12 「11「有言実行」について説明した次の文章の空らんに入る言葉を漢字二字で答えなさい。

「有言実行」は、もともと「あれこれ言わずに黙ってやるべきことをしっかり行う」という意味の「（二字）実行」という四字熟語を使って、「口に出したことはしっかり行う」という意味を表した表現である。

13 「12「突然、球児君がうわーんと声を上げて泣き出した」とありますが、その時の気持ちについて述べた次の文章の空らんの条件に合うように、本文からぬき出して答えなさい。

（ア 三字）に入部せず（イ 四字）を裏切ったことと、自分と一緒に叱られるつもりであやまってきている（ウ 四字）に申しわけないという気持ち。

平成二十九年 度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国 語 (その八)

三 次の1～10の 部のカタカナを漢字に、11～15の 部の漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 私は美術館で有名な作家のハンカを見て感動した。
- 2 彼は子どもが生まれた記念にオリーブの木をショクジュした。
- 3 おじさんはアユが釣れる六月からのカイキン日を楽しみにしている。
- 4 もしも願いがかなうならいつかウチュウへ行ってみたい。
- 5 お父さんに多くの名前のユライを教えてもらった。
- 6 夏の間お世話になったおばあちゃんにシャレイを送る。
- 7 登山家は北に進むために、方角をジシヤクで調べた。
- 8 先生が「酒やたばこはカゼイの対象である」と教えてくれた。
- 9 妹はあこがれていたピアニストにハナタバをわたす。
- 10 グローバル化が進み、企業間カクサが問題になっている。
- 11 この川の源を調査するために、山奥へと入って行く。
- 12 コーヒーを飲むため、カップにお湯を注ぐ。
- 13 一人で計画をたてて、アメリカ縦断の旅をする。
- 14 日用品を買うために、家の近くの百円均一の店に行く。
- 15 お母さんがかぜをひいたので、よくが幼い妹の世話をした。

